

閉会式挨拶



## 閉会式挨拶

米国側部会長：S. Shyam Sunder

3日間の会議が非常に興味深く、非常に生産的な話し合いが行えたと思っております。技術的なプログラムも非常にすばらしい内容が多かったかと存じます。

戦略的計画の中でも作業を行い、新たなタスクコミッティーにも触れることができ、新たな計画も打ち出すことができ、将来に向けての作業の幅が広がったと思います。これによって日米間の協力関係がさらに強化されることと思います。この会議の中で変更を加えましたが、この変更が今後の5年、10年でプラスに働くと考えております。この変更は、簡単にできる内容ではありませんでしたが、過去の努力があったからできたことかと思えます。

藤井議長のリーダーシップで進めていただいたことを感謝しております。私たちも、米国での省庁間の協力関係がなければこうしたことは達成できませんでした。参加する多くの人々の貢献が、将来に向けてうまく働いてくれたと考えております。今回は決議に至ることもできました。34回の合同部会は、アメリカで開催されることとなっておりますが、今後も日米の事柄について勉強できることを楽しみにしています。事務局の方々にお礼を申し上げます。

UJNR耐風・耐震構造専門部会の第33回合同部会の閉会を迎えるに当たり、日本側部会を代表して一言ご挨拶させていただきます。

この第33回合同部会では、24編にわたる論文発表を通じ、耐風耐震技術の最新の情報が交換されました。また、戦略的計画を策定することができ、本部会活動が今後ますます充実していくことが期待され、非常に有意義な会議でありました。Sunder部会長を初めとする米国側関係者の皆様のご協力に対して、感謝を申し上げる次第です。

また、会議の準備にあたられました両国の事務局長、さらに事務局の皆さんに感謝の意を表したいと思えます。さらに、非常に困難な仕事を見事にはたして頂いたお二人の通訳に拍手をもって感謝したいと思えます。

明日からは、東京消防庁災害救急情報センター、大阪港内の橋梁、大型震動台建設工事現場、京都大学防災研究所等の視察が始まります。この旅行が、皆様の知見を深め、耐風耐震技術の発展に寄与しますことと、両国部会委員の相互理解を一層深めることに大きく役立つことを願っております。

米国側の皆さんの前には、包が置いてあります。最近わが国では外国の協力を得ながら製品を作ることが増えておりますが、これもその一例です。今後皆様が国際的なお仕事をするときにお使いいただければ幸いです。

さて、前回および今回の合同部会と私が日本側の部会長を務めて参りましたが、開会式のご説明いたしました日本側組織の再編を考慮しまして、独立行政法人土木研究所理事長の坂本様に日本側部会長をバトタッチしたいと思っております。米国側関係者の皆様のご協力に対し、改めて感謝を申し上げますとともに、坂本新部会長に対しましても引き続きよろしくご協力のほどお願い申し上げ、私の閉会の挨拶を終わりたいと思えます。どうもありがとうございました。